

社会福祉法人 京都市山科区社会福祉協議会

平成26年度 事業報告

I 総括

社会福祉協議会（以下「社協」）では、第3期地域福祉活動計画（平成25～29年度）において、「私たちは、あらゆる生活課題と孤立防止に向けた安心・安全の福祉のまちづくり活動をすすめます。」という基本目標を掲げ、今後5年間の地域福祉活動の計画的な推進を目指しています。

学区社協では、地域のつながりが希薄化している現状を踏まえ、「見守り活動・居場所づくり・相談事業」を中心にした重点目標を設定し、取組を進めています。特に、積極的に居場所づくりを展開していただき、孤立防止につながるよう見守りの目を着実に増やしている状況です。

しかしながら、多くの地域や団体で、担い手不足や新たな担い手の育成が課題となってきました。今後は、区・学区社協の活動の見える化を図り、活動に関わりやすい仕組みを構築する必要があります。

こうした状況のもと、平成26年度は、以下の取組を重点的に進めました。

1 学区域を中心にした地域福祉活動の推進

地域福祉推進モデル事業においては、大塚学区社協で全戸対象のアンケート調査・分析を実施し、その結果を住民懇談会で報告しました。また、小野学区社協では、課題把握のため、地域特性を踏まえたサンプリング調査を実施しました。地域の課題を解決していくためには、学区内を中心に福祉施設・教育機関・相談機関等と連携を図り、支援していく基盤づくりを進める必要があります。モデル事業を参考に、各学区に適した方法で福祉活動を進めていくことを課題としています。

地域の絆づくり事業では、大宅学区・百々学区・小野学区での新たな居場所の開設を支援するとともに、学区社協活動交流会において安朱学区社協の取組を紹介し、居場所づくりを中心とした学区社協活動の展開例を提示しました。山科区内では、誰もが気軽に立ち寄れる居場所の開設が広がっており、今後はその居場所を拠点として、孤立防止に向けた取組や生活課題を把握するための相談機能を充実させていくことが求められます。

2 地域におけるボランティア活動の活性化

学区社協と民生委員を対象に研修会を実施し、様々な社会資源との協働や担い手づくりなど、新しい助け合い活動について検討しました。また、ボランティアグループが連携を強めていけるよう、グッズの作成などによりボランティアグループ連絡会の周知を図りました。学区社協やボランティアグループの多くが、担い手の高齢化や不足を課題と感じているとともに、介護保険制度の改正に伴い、地域福祉の新たな担い手も必要とされており、その育成も課題として挙げられます。

一方、災害ボランティアに関わっては、災害ボランティアセンター設置運営訓練において、平成25年度訓練時の課題を踏まえて災害時の学区のモデル体制を提示し、各学区での災害時の体制づくりのきっかけを提供しました。行政、区・学区社協、福祉関係団体等が連携して被災者支援を行うための方策について検討するとともに、学区社協会長会議等でも協議を重ね、学区社協に災害時の連絡担当者を置き、区災害ボランティアセンターと連携して、在宅で被災されている方のニーズを把握する体制を整えていくこととしました。

3 相談活動を通じたセーフティネットの取組強化

(1) 日常生活自立支援事業

平成 24 年度から解約・終了ケースが徐々に増え、実働件数がほぼ横ばいの状態にあったため、解約・終了件数の推移を鑑み、年度初めに実働件数 55 件の目標を立てて事業を推進しました。年度末には実働件数 58 件と目標を達成することができましたが、依然として待機者がおられる現状にあります。

生活支援員交流会の実施（4 回）、支援員ニュースの発行（4 回）は、計画どおり実施できました。生活支援員交流会では、支援員が日頃の活動の中で抱えている悩みや判断に迷ったケースなどを共有し対応を検討しました。また、研修会を実施し、本事業に関する理解を深め、支援技術の向上を図りました。生活支援員の稼働率を上げ、本事業を希望する待機者を 1 件でも多く減らすことが課題です。

(2) 生活福祉資金貸付事業

平成 26 年度は、京都市内で伏見区に次いで二番目に相談件数が多く、その半数以上が高校・大学に進学するための貸付でした。相談件数の増加に伴い、申請件数も昨年度から増加しています。

貸付事業と並行して、民生委員への事業説明も実施して事業への理解を深めていただき、連携・協働体制を強化しながら償還支援に取り組みました。社協・民協合同研修として開催された地域福祉推進セミナーでは、山科区において民生委員と協働して取り組んだ償還支援が紹介されました。借受人からの償還に関する問合せも昨年度より件数が増えており、民生委員から借受人への丁寧な声掛けなど、区社協への相談を促していただいた結果と言えます。

また、平成 26 年度からは、失業者対象の住宅支援給付事業の窓口を開設し、貸付事業と合わせたより総合的な支援ができるようにもなりました。今後も、引き続き民生委員への事業説明を進めて一層の連携強化を図り、総合的な支援に取り組んでいきます。

4 ネットワーキングを通じた生活支援事業の充実

個々に寄せられた生活課題に対し、関係機関と連携して個別支援や見守りのネットワークづくりを促しました。既存の専門機関ネットワークにおいては、開催される企画や取組の中で出会った“何らかの福祉の支援が必要と判断される人”に、多くの関係者による支援と見守りの輪が広がる関わりが築かれてきました。また、フリースペースにおいても、生活課題を抱えた人に寄り添い、耳を傾け、個々に対応を行ってきました。定期的に集うことで見守りの目や声掛けの場面が増え、関係機関・地域住民等の立場を超えて、みんながお互いに見守り見守られている安心感とつながりの強化を実感できる機会を提供できました。

今後は、関係機関との連携を学区域で築けるような仕組みづくりや、フリースペースを拠点として多様な個別支援に対応できる体制づくりを進める必要があります。また、制度の狭間にあるなど、どの専門機関からも把握されていない生活困窮者の掘り起しにも取り組んでいく必要があります。

II 事業の概要

1 法人運営

(1) 会議

理事会（5回）、評議員会（4回）、監事会（1回）の基本会議に加え、区社協の意志決定及び事業執行を組織的に行うために、正副会長会議（13回）、学区社協会長会議（6回）、組織、事業、財政強化のために、企画委員会（3回）、財務委員会（4回）を定例で開催した。

①正副会長会議

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 4 月 10 日（火）	区社協	1. 各事業報告 2. 理事会・評議員会・監事会について 3. 法人活動の運営管理並びに委員会の再編強化について 4. 平成 25 年度事業報告並びに収入支出決算について 5. 平成 26 年度賛助会員募集活動について 6. 平成 26 年度年間事業計画と当面の事業について（素案） 7. その他 8. 当面のスケジュール
平成 26 年 5 月 13 日（火）	区社協	1. 各事業報告 2. 理事会・評議員会・監事会について 3. 平成 26 年度第 1 回学区社協会長会議 5/15（木）について 4. 平成 26 年度地域福祉講座 6/28（土）、7/5（土）について 5. 学区社協活動交流会 8/8（金）について 6. 法人設立 20 周年記念事業協賛金の募集（案）並びに第 20 回社会福祉大会 2/28（土）について 7. 第 3 期地域福祉活動計画の推進について 8. その他 9. 当面のスケジュール
平成 26 年 6 月 9 日（木）	区社協	1. 各事業報告 2. 第 3 期山科区地域福祉活動計画の推進について 3. 山科区災害ボランティアセンターの取組について 4. 学区社協活動交流会 8/8（金）13:30～15:30 5. 財務委員会について 6. 事業調査等について 7. その他 8. 当面のスケジュール
平成 26 年 7 月 8 日（火）	区社協	1. 各事業報告 2. 第 2 回学区社協会長会議について 3. 学区社協活動交流会 8/8（金）13:30～15:30 4. 任期満了に伴う役員改選について 5. その他 6. 当面のスケジュール
平成 26 年 8 月 5 日（火）	区社協	1. 各事業報告 2. 学区社協活動交流会 最終確認について 3. 山科社会福祉大会について 4. その他 5. 当面のスケジュール
平成 26 年 9 月 9 日（火）	区社協	1. 各事業報告 2. 学区社協会長会議について 3. 任期満了に伴う役員改選について 4. 山科区社協 各委員会の再編について 5. 山科区社協 各委員会の再編について（案） 6. 山科区災害ボランティアセンター訓練の実施について 7. 山科社会福祉大会について

		8. その他 9. 当面のスケジュール
平成 26 年 10 月 3 日 (火)	区社協	1. 会長代理順位について 2. 各委員会の編成について 3. 当面のスケジュール
平成 26 年 10 月 14 日 (火)	区社協	1. 委員会・理事会・評議員会・役員研修会の開催について 2. 山科区災害ボランティアセンター設置運営訓練について 3. 地域福祉推進委員会について 4. その他 5. 当面のスケジュール
平成 26 年 11 月 11 日 (火)	区社協	1. 平成 26 年度上半期事業執行状況について 2. 第 4 回理事会・役員研修会・第 3 回評議員会の開催について 3. 学区社協会長会議について 4. 社会福祉法人を取り巻く状況について 5. 社協行動指針について 6. 地域ケア会議について 7. 各委員会 (案) について 8. その他 9. 当面のスケジュール
平成 26 年 12 月 2 日 (火)	区社協	1. 第 4 回理事会・役員研修会・第 3 回評議員会の開催について 2. 山科社会福祉大会について 3. 災害ボランティアセンター 4. 学区ボランティアセンター連絡会研修会について 5. 各委員会等日程について 6. その他 7. 当面のスケジュール
平成 27 年 1 月 20 日 (火)	区社協	1. 第 20 回山科社会福祉大会について 2. 学区社協会長会議について 3. 学区ボランティアセンター連絡会研修会 (案) について 4. 各委員会等日程について 5. 委員会の再編について 6. 学区社協の災害体制時等の体制について 7. 京都市老人福祉施設協議会との連携による地域貢献の促進について 8. 平成 27 年度事業計画 (素案) について 9. その他 10. 当面のスケジュールについて
平成 27 年 2 月 10 日 (火)	区社協	1. 第 20 回山科社会福祉大会について 2. 学区ボランティア活動関係者研修会について 3. 社協を巡る動向について 4. 事業計画 (素案) について 5. 平成 27 年度収入支出予算 (素案) について 6. 各委員会の再編について 7. その他 8. 当面のスケジュールについて
平成 27 年 3 月 10 日 (月)	区社協	1. 山科社会福祉大会について 2. 学区ボランティア活動関係者研修会について 3. 学区社協会長会議について 4. 第 5 回理事会・第 4 回評議員会について 5. 平成 26 年度第 3 次補正予算 (案) について 6. 社協をめぐる動向について 7. 平成 27 年度事業計画 (案) について 8. 平成 27 年度収入支出予算 (案) について 9. 平成 27 年度各委員会の委員構成について 10. 平成 27 年度共同募金配分金について 11. その他 12. 当面のスケジュールについて

②理事会

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 5 月 29 日 (木)	区社協	【第 1 号議案】 評議員の補充選任に関する件について 【第 2 号議案】 平成 25 年度事業報告に関する件について 【第 3 号議案】 平成 25 年度一般会計収入支出決算に関する件について —監査報告— 【第 4 号議案】 平成 26 年度第 1 次収入支出補正予算 (案) に関する件について 【第 5 号議案】 事務局規程 (案) の改正に関する件について 【第 6 号議案】 事務局職員就業規則 (案) の改正に関する件について 【第 7 号議案】 職員給与規程 (案) の改正に関する件について
平成 26 年 9 月 25 日 (木)	区社協	【第 1 号議案】 任期満了に伴う評議員の選任に関する件について
平成 26 年 10 月 3 日 (金)	区社協	【第 1 号議案】 任期満了に伴う会長の選任に関する件について 【第 2 号議案】 任期満了に伴う副会長の選任に関する件について 【第 3 号議案】 任期満了に伴う顧問の委嘱に関する件について 【第 4 号議案】 任期満了に伴う参与の委嘱に関する件について
平成 26 年 12 月 8 日 (月)	区社協	【第 1 号議案】 平成 26 年度上半期事業報告に関する件について 【第 2 号議案】 平成 26 年度第 2 次収入支出補正予算 (案) に関する件について
平成 27 年 3 月 30 日 (月)	区社協	【第 1 号議案】 平成 26 年度第 3 次収入支出補正予算 (案) に関する件について 【第 2 号議案】 平成 27 年度事業計画 (案) に関する件について 【第 3 号議案】 平成 27 年度一般会計収入支出予算 (案) に関する件について

③評議員会

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 5 月 29 日 (木)	区社協	【第 1 号議案】 理事の補充選任に関する件について 【第 2 号議案】 平成 25 年度事業報告に関する件について 【第 3 号議案】 平成 25 年度一般会計収入支出決算に関する件について —監査報告— 【第 4 号議案】 平成 26 年度第 1 次収入支出補正予算 (案) に関する件について
平成 26 年 10 月 3 日 (金)	区社協	【第 1 号議案】 任期満了に伴う理事の選任に関する件について 【第 2 号議案】 任期満了に伴う監事の選任に関する件について
平成 26 年 12 月 8 日 (月)	区社協	【第 1 号議案】 平成 26 年度上半期事業報告に関する件について 【第 2 号議案】 平成 26 年度第 2 次収入支出補正予算 (案) に関する件について
平成 27 年 3 月 30 日 (月)	区社協	【第 1 号議案】 平成 26 年度第 3 次収入支出補正予算 (案) に関する件について 【第 2 号議案】 平成 27 年度事業計画 (案) に関する件について 【第 3 号議案】 平成 27 年度一般会計収入支出予算 (案) に関する件について

④監事会

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 5 月 19 日 (月)	区社協	1. 平成 25 年度事業監査について 2. 平成 25 年度会計監査について 3. その他

⑤学区社協会長会議

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 5 月 15 日 (木)	区社協	1. 平成 26 年度主要事業について 2. 平成 26 年度各学区年間計画と学区重点目標について 3. 法人設立 20 周年記念事業 協賛金について

		<ul style="list-style-type: none"> 4. 平成26年度山科区社協会長表彰候補者推薦依頼について 5. 平成25年度賛助会員の募集について 6. すこやか学級の実態把握及び生活支援サービス調査について 7. 理事・評議員の補充選任について 8. 学区社協活動交流について 9. その他
平成26年7月17日(木)	区社協	<ul style="list-style-type: none"> 1. 学区社協活動交流会について 2. 学区社協重点目標の進捗状況について 3. 学区社協活動交流・近況報告等について 4. その他
平成26年9月18日(木)	区社協	<ul style="list-style-type: none"> 1. 学区社協活動交流会の振り返りについて 2. 学区社協重点目標の進捗状況について 3. 山科区災害ボランティアセンター訓練の実施について 4. 第1号部会【学区社会福祉協議会】について 5. その他
平成26年11月20日(木)	区社協	<ul style="list-style-type: none"> 1. 学区社協活動 上半期の振り返りについて 2. 学区社協重点目標の進捗状況について 3. 災害ボランティアセンター設置運営訓練の振り返りについて 4. 山科社会福祉大会について 5. 社会福祉協議会行動指針の見直しと学区ボランティアセンター活動のあり方について 6. 京都市社会福祉協議会と京都市老人福祉施設協議会との社会福祉施設の地域貢献・社会貢献の促進に関する協定書について 7. その他
平成27年1月29日(木)	区社協	<ul style="list-style-type: none"> 1. 山科社会福祉大会について 2. 学区ボランティアセンター活動関係者研修会について 3. 学区社協重点目標の進捗状況について 4. 学区社協の災害時等の連絡体制について 5. 京都市老人福祉施設協議会との連携による地域貢献の促進について 6. 平成27年度事業計画(素案)について 7. その他
平成27年3月19日(木)	区社協	<ul style="list-style-type: none"> 1. 山科社会福祉大会について 2. 社協をめぐる動向について 3. 平成27年度 事業計画(素案)について 4. 平成27年度 収入支出予算(素案)について 5. 平成27年度 共同募金配分金について 6. 平成27年度 学区社協助成要綱について 7. その他

⑥企画委員会

開催年月日	場所	内 容
平成26年5月8日(木)	区社協	<ul style="list-style-type: none"> 1. 法人活動の運営管理並びに委員会の再編強化について 2. 年間事業概要及び年間協議事項について 3. 平成25年度事業報告について 4. 平成26年度主要事業について 5. 第20回山科社会福祉大会並びに平成26年度山科区社協会長表彰候補者推薦依頼について 6. 第3期山科区地域福祉活動計画 進捗状況について 7. その他 8. 主要事業・会議等日程
平成26年11月17日(月)	区社協	<ul style="list-style-type: none"> 1. 委員長・副委員長の選任について 2. 平成26年度上半期事業報告について 3. 山科区社協会長表彰審査について 4. 第20回山科社会福祉大会について 5. 平成26年度役員研修会について

		6. 京都市社会福祉協議会と京都市老人福祉施設協議会との社会福祉施設の地域貢献・社会貢献の促進に関する協定書について 7. その他
平成 27 年 3 月 5 日 (木)	区社協	1. 第 3 期山科区地域福祉活動計画推進 進捗について 2. 第 20 回山科社会福祉大会について 3. 社協を巡る動向について 4. 平成 27 年度事業計画 (素案) について 5. 委員会の再編について 6. その他

⑦財務委員会

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 5 月 8 日 (木)	区社協	1. 法人活動の運営管理並びに委員会の再編強化について 2. 年間事業概要並びに年間協議事項について 3. 平成 25 年度決算報告 (案) について 4. 平成 26 年度共同募金配分金第 2 次配分 (案) について 5. 平成 26 年度第 1 次補正収入支出補正予算 (案) について 6. 共同募金配分金による事業助成の審査並びに助成金交付説明会 (案) について 7. 平成 25 年度賛助会費の募集実績並びに平成 26 年度賛助会員の募集方針について 8. 法人設立 20 周年記念事業協賛金の募集 (案) について 9. その他 10. 主要事業・会議等日程
平成 26 年 6 月 27 日 (金)	区社協	1. 共同募金配分金による事業助成の審査について 2. 共同募金配分金助成金交付説明会について 3. 法人設立 20 周年記念事業協賛金の募集 (案) について
平成 26 年 11 月 13 日 (木)	区社協	1. 委員長・副委員長の選任について 2. 平成 26 年度上半期執行状況について 3. 平成 26 年度第 2 次収入支出補正予算 (素案) について 4. 平成 26 年度賛助会費の募集状況について 5. 法人設立 20 周年記念事業協賛金の募集状況について 6. 当面のスケジュールについて
平成 27 年 3 月 5 日 (木)	区社協	1. 法人設立 20 周年記念事業 協賛金募集結果について 2. 平成 26 年度決算見込み並びに第 3 次補正予算 (素案) について 3. 平成 27 年度共同募金配分金について 4. 社協を巡る動向について 5. 平成 27 年度一般会計収入支出予算 (素案) について 6. 委員会の再編について 7. その他

⑧苦情対応委員会

苦情解決規則に基づき苦情受付窓口を設置し、必要に応じて苦情対応委員会を開催できるよう体制を整えた。

⑨各会員部会

役員改選に伴い、各部会を開催した。

<1 号部会>

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 9 月 18 日 (木)	区社協	1. 理事候補者・評議員候補者の選出について 2. 次期部会長の選任について

<2 号部会>

開催年月日	場所	内 容
-------	----	-----

平成 26 年 9 月 22 日 (月)	区役所	1. 理事候補者・評議員候補者の選出について 2. 次期部会長の選任について
----------------------	-----	---

<3 号部会>

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 9 月 16 日 (水)	区社協	1. 理事候補者・評議員候補者の選出について 2. 次期部会長の選任について 3. 各団体活動情報交換 4. その他

<4 号部会>

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 9 月 19 日 (金)	区社協	1. 理事候補者・評議員候補者の選出について 2. 次期部会長の選任について 3. 各団体活動情報交換 4. その他

<5 号部会>

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 9 月 19 日 (金)	区社協	1. 理事候補者・評議員候補者の選出について 2. 次期部会長の選任について 3. 各団体活動情報交換 4. その他

(2) 賛助会員の募集

13 学区すべてにおいて募集活動を行い、区民より賛同を得て会費という形で協力していただいた。賛助会費は福祉活動を支える大きな財源であると同時に、区・学区社協活動に対する期待のあらわれでもある。今後、多くの区民より協力を得られるような働きかけを行い、またそれらの期待に応える活動を積み重ねていくことが求められる。

山科区社会福祉協議会賛助会費 (単位：円)

学 区	賛助会費実績	学 区	賛助会費実績	学 区	賛助会費実績
勸 修	1,116,500	陵ヶ岡	755,500	小 野	1,218,500
山 階	985,500	大 宅	753,700	音羽川	1,341,800
鏡 山	1,042,500	山階南	1,346,600	西 野	600,000
音 羽	793,500	百 々	959,150	事務局	330,000
安 朱	994,000	大 塚	1,203,000	合 計	13,440,250

(3) 山科総合福祉会館の管理運営

山科区の地域福祉活動の拠点として、当事者組織やボランティアグループの活動を支援するために、会議室やボランティア室の部屋の貸出しや、印刷機、車いす、アイマスク等の資機材の貸出し利用に便宜を図った。

(4) 諸規程の整備・適正運用

諸規程を整備し、適正に運用した。

2 企画広報事業

(1) 第 3 期山科区地域福祉活動計画の推進

行政、専門機関、関係団体、福祉施設等による第 3 期山科区地域福祉活動計画推進会議を行い、地域福祉モデル推進事業を進めるため、生活問題や社会的孤立防止に向けた取組を実施した。

①地域福祉活動の促進

本事業の理解促進、地域福祉活動の促進のための地域福祉講座・学区社協活動交流会等の研修会を開催した。研修を踏まえ、各学区における地域福祉活動プログラムの開発、ネットワーク体制構築に向け、見守り活動・居場所づくり・相談事業を主とした重点目標の促進を図った。

②ネットワーク体制構築・懇談会の実施

大塚学区社協を第3期地域福祉活動計画におけるモデル学区として指定し、学区内における福祉・教育等の関係機関、地域組織等に呼びかけ関係者懇談会を開催した。また、平成26年度に新たに第3期地域福祉活動計画におけるモデル学区として指定した小野学区においても、関係者との協議を行った。

③実態把握を目的とした調査活動

大塚学区においては関係者懇談会を踏まえ、実態把握を目的とした全戸調査を実施した。小野学区においても、関係者との協議を踏まえて、地域特性を踏まえたサンプリング調査による課題把握を目的とし、選定した町内を対象に調査を実施した。

④学区住民懇談会の開催

大塚学区における調査活動を通じ、学区の状況をまとめ浮かび上がってきた生活問題を知らせていただくために大塚学区住民懇談会を開催した。

第3期地域福祉活動計画推進会議

日程	場所	内容・検討事項
平成26年6月19日(木)	区社協	1. 第3期山科区地域福祉活動計画の進捗について 2. 地域福祉活動推進モデル事業について 3. 意見交換 4. その他

大塚学区 関係者懇談会

日程	場所	内容・検討事項
平成26年6月7日(金)	大塚学区自治会館	1. 会長挨拶 2. 進捗状況について ①2月22日(月)大塚学区関係者懇談会の報告 ②アンケート調査について 3. 第1次アンケート調査集計報告 4. 質疑応答 5. 今後に向けて
平成26年8月23日(土)	大塚学区自治会館	1. 会長挨拶 2. 大塚学区住民懇談会について 3. 質疑応答

大塚学区 住民懇談会

日程	場所	内容・検討事項
平成26年9月23日(火)	大塚小学校体育館	1. 会長挨拶 2. 来賓紹介 3. 懇談会 ①大塚学区安心安全の福祉のまちづくり推進のためのアンケート調査報告 渡邊 祐巳(山科区中央老人福祉センター所長) ②活動報告 コーディネーター 村井喜治(山科区社会福祉協議会)

		報告 天尾益子（大塚学区社会福祉協議会副会長） 尾山典子（京都市音羽地域包括支援センター課長） 岸田光彦（特別養護老人ホーム山科苑 副施設長） 濱中 祐（オリーブホットハウス）
		4. 意見交換 5. まとめ 6. 閉会

小野学区 関係者懇談会

日程	場所	内容・検討事項
平成 27 年 2 月 13 日（金）	小野小学校	1. 会長挨拶 2. 地域福祉推進モデル事業について 3. アンケート配布・回収について 4. 質疑応答

（２）啓発事業の開催

法人設立 20 周年を記念して、山科区地域福祉活動計画に基づき、住民主体の福祉のまちづくりを発展させていくため、地域福祉活動の最前線である学区社会福祉協議会を核としたネットワーク体制の構築を目指して、法人設立 20 周年事業を実施した。

①法人設立 20 周年記念 第 20 回 山科社会福祉大会の開催

福祉功労者への顕彰と福祉関係者の連帯を広げることと、地域福祉への関心を深めていただくために山科社会福祉大会を開催した。第 1・2 部には約 600 名、第 3 部には約 450 名に参加いただき、行政、福祉関係機関・団体、地域住民が一堂に会し、地域のつながりを再構築し、住民主体の福祉のまちづくりを推進していくことを改めて決意する場となった。

[日 時]	平成 27 年 2 月 28 日（土） 午後 2 時 30 分～午後 8 時
[会 場]	京都ホテルオークラ
[顕 彰]	表彰 86 名／2 団体 感謝状 5 名／52 団体
[内 容]	第 1 部 式典 第 2 部 記念講演 「父帰る～父はなぜ帰れたのか～」 木津川 計 氏（元立命館大学教授・雑誌『上方芸能』発行人） 第 3 部 感謝のつどい

②法人設立 20 周年記念事業への協賛

法人設立 20 周年事業の趣旨に賛同いただき、目標金額 1,500,000 円を大幅に上回る 2,410,000 円を 42 団体・個人から協賛いただいた。法人設立 20 周年記念誌において、協賛いただいた団体・個人を福祉関係者に紹介した。

③法人設立 20 周年記念事業費の助成

法人設立 20 周年記念事業費として、学区社会福祉協議会へ助成した。

（３）調査研究事業

①基礎調査の実施

学区社会福祉協議会、当事者団体、ボランティアグループの基礎調査を実施した。

（４）福祉情報流通事業

①機関誌「Be-Vo」（ビーボ）の発行

機関誌「Be-Vo」は、事業計画特集号、ユースアクション特集号、第 28 号を発行し、地域回覧により事業の広報を行った。事業計画特集号では区・学区社会福祉協議会活動等を紹介し、賛助会費の使途、区社協予算について報告を行った。

②ホームページの充実

インターネットによる情報発信を強化するため、区社協が関わる講座案内をホームページ上に掲載し、訪問者・ボランティア活動者の増加に努めた。

<http://www.mediawars.ne.jp/~fukusi08/>

③広報通信員の活動促進

地域福祉活動実践の発信を目的として、学区社協に広報通信員を設置し、地域福祉活動の情報と実践を収集し、ホームページ等の広報媒体に掲載し、区民への情報の流通促進と共有化を図った。

④山科区行政推進会議への参加

山科区の行政関係機関で構成する山科区行政推進会議に参画し、「文化・教育・福祉部会」に属した。

(5) 研修事業

①学区社協活動交流会の開催

学区社協活動の活性化を図るために、学区社協活動の実務者を対象に活動交流会を実施した。ネットワーク支援（生活支援）による地域福祉の推進をテーマに、専門職と地域とが協力した先進事例を地域包括支援センターから報告いただくとともに、学区社協からは地域の絆づくり事業における居場所づくりの実践報告をいただいた。

後半のグループワークにおいては、地域で起こっている現状やそれに対する学区の関わり等、参加者が各学区活動の中で経験された内容を主に意見交換が行われた。参加者は 93 名であった。

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 8 月 8 日（金）	アスニー 山科	テーマ：「ネットワーク支援（生活支援）による地域福祉の推進について」 ・事例報告① 「見守り活動貸出し名簿の作成を通じた地域とのネットワークの強化について」 京都市地域包括支援センター・ 在宅介護支援センター連絡協議会副会長 京都市御池地域包括支援センター センター長 秋山 博之 氏 ・事例報告② 「居場所アルモンデからのつながりについて」 安朱学区社会福祉協議会 副会長 中澤 博子 氏 ・活動交流（グループ毎で意見交流）

②役員研修会の開催

国や京都市の動向を踏まえながら、身近な地域福祉活動に焦点をあて、住民主体による福祉課題に対し、事業を進めていくために「福祉をめぐる最新の動向」をテーマに理事・監事・顧問・参与・評議員を対象に地域福祉活動について考える役員研修会を実施した。

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 12 月 8 日（月）	区社協	「最新の福祉の動向と山科の福祉のまちづくり」 講師 京都市社会福祉協議会 事務局長 平田 和洋 氏

③地域福祉講座の開催

地域福祉活動を推進する第一線の組織である学区社会福祉協議会の人材育成は、地域福祉を発展させるための最重要課題である。新しく学区社協活動を担う方をはじめ学区社協

活動に関わる方を対象に、地域福祉活動の展開を考えると共に実際の活動に役立つ技術や知識等を学ぶことを目的として開催した。参加者はのべ82名であった。

開催年月日	場所	内 容
平成26年6月28日(土)	区社協	テーマ：「社協をめぐる動向とネットワーク支援(生活支援)の目指す方向について」 (講師)京都市社会福祉協議会 地域福祉推進室 室次長 寺田 玲 氏
平成26年7月5日(土)	区社協	テーマ：「多様な地域福祉課題と学区社協活動 ～活動の仕組みづくりと拠点づくり～」 (講師)山科区社会福祉協議会 事務局長 村井喜治

④学区社協実務者説明会

学区社協活動を担う方を対象に、学区社協活動報告を通して情報交換を行い、活動報告事例をもとに基礎的内容(学区活動費の申請・報告方法等)の具体的な手続きを説明した。参加者は28名であった。

日程	場所	内容・検討事項
平成26年4月25日(木)	区社協	1 山科区地域福祉活動計画、平成26年度山科区社会福祉協議会事業計画について 2 学区社協活動総合推進事業助成について 3 申請様式、報告様式の説明と記入の仕方について

(6) 福祉関係団体事業への助成

福祉団体・福祉事業の推進を図るために福祉関係団体への助成を行った。

また、助成金の使途の明確化と活動の活性化を目的に、助成交付を受けた福祉関係団体、ボランティアグループ、福祉施設を対象に助成金交付説明会を開催した。参加は28団体であった。

福祉団体・福祉事業助成金一覧(単位：円)

団体名	助成金額	団体名	助成金額
山科区老人クラブ連合会	60,000	山科区保育園協議会	60,000
山科区身体障害者団体連合会	70,000	山科区母子寡婦福祉会	48,000
山科区肢体障害者協会	59,000	山科区少年補導委員会	60,000
山科視覚障害児者協会	59,000	山科区子供会育成連絡協議会	40,000
聴覚障害者協会山科支部	59,000	山科区遺族会連合会	48,000
中途失聴・難聴者協会山科支部	59,000	社会を明るくする運動 山科区実行委員会	80,000
山科区身体障害児者父母の会	35,000	ふれあいやましな実行委員会	150,000
手をつなぐ育成会山科支部	80,000	合計15団体	
		助成金額合計	967,000

助成金交付説明会

日程	場所	内容・検討事項
平成26年7月24日(火)	区社協	1 共同募金をめぐる現状と課題について 京都府共同募金会 総務課長 桂 豊 氏 2 各団体へ助成金交付

3 学区社会福祉協議会支援事業

①学区社協活動

学区社会福祉協議会は、住民参加のもとで地域福祉活動を進める基盤組織であり、福祉のまちづくりをすすめる最前線である。区社会福祉協議会が助成事業として推進している学区社協事業の項目と、各学区での実施状況は以下のとおりである。これ以外にも、高齢者等を対象に学区民との交流を目的とした「ふれあいの集い」等学区独自の取組へも重点事業助成として助成を行った。

第3期山科区地域福祉活動計画（平成25～29年度）のもと、引き続き、学区社協活動支援に重点を置いて計画的にすすめていく。

学区社協重点目標

学区	重点目標
勸修	・社協の担い手づくり。 ・高齢化に伴う、健康すこやかサロンの充実（毎月第1～4土曜日） ・災害ボランティアの人材育成（啓発、研修、訓練の実施）
山階	・各自治会（町内会）に社会福祉協議会、福祉対策部会の確立に取り組みます。
鏡山	・これからの学区社協活動の担い手づくり、人づくりに取り組みます。 ・学区社協活動の理解を深めるため広報に力を入れて取り組みます。
音羽	・向い三軒両隣による要配慮者の見守り活動の充実に取り組みます。 ・誰もが集えるフリースペースの拡充に取り組みます。 ・健康すこやか学級の回数を増やします。 ・担い手を増やすように努めます。
安朱	・学区住民がどなたでも来られるよう、居場所を1ヶ所から3ヶ所に増やします。 ・若い世代が活動できる機会、様々な世代が参加できる機会を増やします。
陵ヶ岡	・きめ細やかな絆づくりによる安心安全の街づくりを進めます。
大宅	・担い手づくりに取り組みます。 ・学区民が気軽に集える居場所づくりを開設します。
山階南	・「絆ひろば」の回数を増やし、誰もが気軽に集える居場所づくりを進めます。
百々	・福祉施設と協働し、居場所づくりに取り組みます。 ・学区社協の担い手づくりを進めます。
大塚	・地域福祉推進モデル事業をすすめ、ふれあいスペース絆の拡充に取り組みます。
小野	・熱い血の流れた福祉・自治づくりを進めます。 ・みんなで考える自治づくりを進めます。
音羽川	・健康すこやか学級に全町内から参加できるように、新たな拠点づくりをすすめます。 ・要援護者名簿の整備をすすめ、特に障害者の把握に努めます。
西野	・福祉施設と連携した居場所づくりを進めます。

学区社協活動総合推進事業

区分	項目	
学びあう活動	実態把握	①福祉台帳の整備、②福祉調査の実施、③住民福祉懇談会の開催
	理解促進	④実務者研修会の開催、⑤福祉講座の開催、⑥広報紙の発行
ふれあう活動	仲間づくり	⑦当事者同士の交流会の開催、⑧地域子育てサロンの開催
	地域との交流	⑨高齢者と子どもたちの世代間交流、⑩地域行事への参加促進、⑪福祉施設との交流
支えあう活動	⑫訪問ネットワーク活動、⑬寝具クリーニングサービス、⑭ふれあい配食サービス、⑮健康すこやか学級、⑯学区ボランティアセンターの設置、⑰地域の絆づくり支援事業	

学区社会福祉協議会の活動への助成状況

	勸修	山階	鏡山	音羽	安朱	陵ヶ岡	大宅	山階南	百々	大塚	小野	音羽川	西野	実施率
実態把握	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12/13
理解促進	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	11/13
学区社協広報紙の発行	○	○	○		○	○	○		○		○			8/13
仲間づくり	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	12/13
地域との交流	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13/13
訪問ネットワーク事業	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12/13
寝具クリーニングサービス	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	12/13
ふれあい配食サービス		○					○	○						3/13
健康すこやか学級事業	36	45	10	12	57	13	6	25	20	11	12	18	26	13/13
学区ボランティアセンター	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	12/13

○は実施学区、健康すこやか学級事業は実施回数

②地域の絆づくり事業

平成24年10月より、相談活動・見守り活動・居場所づくりの3つを柱とする「地域の絆づくり事業」を開始した。今後ますます増加する高齢者が地域で安心して生活しているよう、学区社協を中心に地域のあらゆる関係団体や専門機関と連携しながら取り組まれた。

学区社会福祉協議会の活動状況

	勤修	山階	鏡山	音羽	安朱	陵ヶ岡	大宅	山階南	百々	大塚	小野	音羽川	西野	実施率
相談活動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13/13
見守り活動	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	13/13
居場所づくり活動	○	○		○	○		○	○	○	○	○	○		10/13

4 ボランティアセンター事業

(1) ボランティアセンター運営

①山科ボランティアセンター運営委員会

当事者団体、学区ボランティアセンター、ボランティア団体、社会福祉施設、学校等の関係者で組織する「山科ボランティアセンター運営委員会」を開催し、区内のボランティア活動の振興・支援方策とボランティアセンター事業のあり方についての検討を行った。

山科ボランティアセンター運営委員会

開催年月日	場所	内 容
平成26年6月6日(金)	区社協	1.平成25年度 山科ボランティアセンター事業報告について 2.平成26年度 山科ボランティアセンター事業推進の具体化について ①平成26年度山科区ボランティアセンター事業計画について ②山科区災害ボランティアセンターについて 3.情報交換・交流懇談 4.その他
平成26年11月17日(月)	区社協	1.委員長・副委員長の選任について 2.平成26年度山科ボランティアセンター上半期事業報告について 3.災害ボランティアセンター設置・運営訓練実施報告について 4.活動報告・情報交換 5.その他 6.当面のスケジュールについて
平成27年3月3日(火)	区社協	1.平成26年度山科区ボランティアセンター事業の振り返りについて 2.社協をめぐる動向について 3.平成27年度山科区ボランティアセンター事業計画(素案)について 4.委員会の再編について 5.意見交換・交流懇談 6.その他 7.当面のスケジュールについて

②学区ボランティアセンター連絡会・研修会の充実

名称を学区ボランティア活動関係者研修会として開催した。学区ボランティアセンターに関わる人や民生児童委員を対象として、地域で福祉活動を連携して進めていくため、「社協行動指針2015と新しい助け合い活動について」をテーマに、山科区民生児童委員会と初めて共催した。13学区から計49名の参加があった。内容は、前半にテーマの概要説明を行い、後半では意見交換を行った。

開催年月日	場所	内 容
平成27年3月13日(金)	区社協	1.講義「社協行動指針2015と新しい助け合い活動について」 講師：京都市社会福祉協議会 地域福祉推進室次長 寺田 玲 氏 2.グループでの活動交流・報告

③ボランティア活動に関する相談対応

福祉総合相談事業の中でも、ボランティア活動に関する相談について情報提供やコーディネートを行った。

ボランティア活動相談・コーディネート件数

	件数	内訳⇒	ボランティアしたい	15件
ボランティア相談件数 合計	45件		ボランティアしてほしい	24件
			その他	6件

(2) ボランティア情報発信事業

①山科ボランティア情報の発行

機関誌「Be-Vo」に「山科ボランティア情報」を掲載し、全戸配布することで、区民へのボランティア活動の啓発に取り組んだ。

②山科ボランティアガイドの発行

ボランティア活動の振興を目的に、ボランティア活動の基礎知識や、ボランティアグループの活動紹介等を掲載し、ボランティア基礎講座参加者を中心に配布した。

③ホームページ等での情報発信の充実

区社協ホームページを活用して、各種ボランティア講座等の案内やボランティア募集等を行った。また、必要に応じて、市民新聞区民版をはじめ、新聞等のマスコミ機関を通じて住民への情報発信や、学区社協の協力のもと広報物の回覧等を行った。

(3) 人材養成事業

①ボランティア活動基礎講座の開催

ボランティア活動の基礎知識等についての講義と、ボランティアとして活動している方からの活動紹介を行う講座を開催した。受講者は15名、ボランティアグループ連絡会加入団体からの参加者は14名であった。

ボランティア活動基礎講座<定員30名>

開催年月日	場所	内 容	参加人数
平成26年8月4日(月)	区社協	<ul style="list-style-type: none"> ・お話 「ボランティアの基礎知識」 講師：南 多恵子 氏(京都光華女子大学 講師) ・活動紹介「山科区にあるボランティアグループ活動・市民活動～こんな魅力・やりがいがいっぱい!～」 ・ボランティア団体への質問コーナー 	29名

②視覚障害者ボランティア入門講座の共催

視覚障害者ボランティア入門講座を、山科身体障害者福祉会館主催、区社協が共催し、点訳サークル「京都ライトハウス情報ステーション」「視覚障害者 PC 教室」の協力で開催した。受講者8名、述べ22名であった。

視覚障害者ボランティア入門講座(全3回)<定員10名>

開催年月日	場所	内 容	参加人数
平成26年6月28日(土)	身障会館	<ul style="list-style-type: none"> ・障害当事者としての体験談と、街で視覚障害者をみかけた時にどのような声かけ、お手伝いをしてもらえたら嬉しいのかについて講義 ・点字の歴史、点字の基礎「あいうえお」等の50音の打ち方、点字器による文字記入等 	8名
平成26年7月5日(土)	身障会館	<ul style="list-style-type: none"> ・手引き歩行DVD鑑賞、手引きについてのレクチャー ・アイマスク着用にて利用者相互での手引き歩行体験(階段・ 	7名

		館外) ・前回に続いて点字の練習	
平成 26 年 7 月 12 日 (土)	身障会館	・点字名刺の作成 ・日常生活・身近なところに見られる点字について ・視覚障害者に関わるボランティア活動のお知らせ ・終了証受渡し	7 名

③やましなふれあい手話講座の開催

手話講座を、区社協主催、山科身体障害者福祉会館と共催し、聴覚障害者協会山科支部と手話学習会みみずく山科支部の協力で開催した。手話を学びながら、聴覚障害者との交流を深めた。昼の部・夜の部あわせて 26 名の受講者があった。(昼・夜の部ー合計 12 回)

手話講座 昼の部 1 月 21 日～3 月 4 日／全 6 回 (11 名) <定員 15 名>

開催年月日	場所	内 容
平成 27 年 1 月 21 日 (水)	区社協	実技① 挨拶・名前・色
平成 27 年 1 月 28 日 (水)	区社協	実技② 数字・日付・時間
平成 27 年 2 月 4 日 (水)	区社協	実技③ 家族・交通手段
平成 27 年 2 月 18 日 (水)	区社協	実技④ 趣味・仕事
平成 27 年 2 月 25 日 (水)	身障会館	講義「聞こえない人の暮らしについて」 講師：京都市聴覚障害者協会山科支部
平成 27 年 3 月 4 日 (水)	身障会館	実技⑤ 交流会

手話講座 夜の部 1 月 22 日～2 月 26 日／全 6 回 (15 名) <定員 15 名>

開催年月日	場所	内 容
平成 27 年 1 月 22 日 (木)	区社協	実技① 挨拶・名前・色
平成 27 年 1 月 29 日 (木)	区社協	実技② 数字・日付・時間
平成 27 年 2 月 5 日 (木)	区社協	実技③ 家族・交通手段
平成 27 年 2 月 12 日 (木)	区社協	実技④ 趣味・仕事
平成 27 年 2 月 19 日 (木)	身障会館	講義「聞こえない人の暮らしについて」 講師：京都市聴覚障害者協会山科支部
平成 27 年 2 月 26 日 (木)	身障会館	実技⑤ 交流会

④やましな要約筆記ボランティア入門講座の開催

中途失聴者・難聴者への理解を深める要約筆記入門講座を、区社協主催、山科身体障害者福祉会館と共催し、中途失聴者・難聴者協会山科支部と要約筆記サークルかたつむりの協力で開催した。京都市主催の要約筆記者養成講座受講へのきっかけと位置づけ、要約筆記について学ぶとともに、難聴者との交流を深めた。受講者は 27 名であった。

要約筆記入門講座 (全 2 回) <定員 30 名>

開催年月日	場所	内 容
平成 27 年 1 月 24 日 (土)	区社協	聴覚障害に関する基礎知識 要約筆記の概要 要約筆記の三原則 (よみやすく書く技術) 筆談・ノートテイク 実技体験
平成 27 年 2 月 7 日 (土)	区社協	要約筆記の三原則 (正しく、速く書く技術) 話しことばの特徴とそぎ落とし 実技体験 交流会

⑤知的ハンディのある人たちを支えるボランティア入門講座の開催

知的ハンディのある人たちとの交流及び理解促進、さらに支援する人材育成を目的として講座を開催した。区内の福祉施設、ボランティア・当事者団体の協力のもと、実習とふ

りかえり、活動先紹介等を盛り込んだ。受講者は14名であった。

知的ハンディのある人をささえるボランティア入門講座（全4回）〈定員30名〉

開催年月日	場所	内 容
平成27年2月14日（土）	区社協	講義 浅田 将之 氏（(福)西陣会 常務理事） テーマ：「ボランティアの基礎知識」 ボランティア体験レポート 実習先紹介（各施設・団体からの内容紹介）
平成27年2月16日（日） ～ 平成27年3月13日（金）	区内障害者 施設等	「現場でのボランティア活動」施設・団体でのボランティア体験 ※期間中2回以上（できれば違う団体にて活動）
平成27年3月14日（土）	区社協	「これでできる！ボランティア ～体験をはじめの一步に～」 ※ふりかえりと活動紹介

⑥地域福祉・ボランティア活動カレッジ（市社協との共催）

開催年月日	場所	内 容
平成27年2月9日（月）	ひと・まち交流 館 京都	講演：「平成26年度 地域福祉活動実践講座 ―介護保険制度の改正にともなう新しい「助け合い活動」について―」 ①基調報告 ②学区社協からの実践報告 ③グループディスカッション

⑦京都手をつなぐ育成会 合同研修事業の開催【ネットワーク支援事業として実施】

開催年月日	場所	内 容
平成27年3月19日（木）	区社協	講演：「グループホームの楽しい生活」 講師：近藤 未知男 氏（NPO法人わくわく グループホームわくわく「にじの家」 理事）

（4）福祉教育・ボランティア学習事業

①中高生の福祉体験事業（山科ユースアクション）の実施

中高生に夏休みを利用した3～5日間の福祉体験の機会を提供し、「福祉やボランティア活動への関心を持つきっかけづくり」「地域の福祉施設、またその利用者について理解することで地域の生活課題を知る」「地域活動やボランティア活動、またそれに関わる方たちの思いを理解する」ことを目的に山科青少年活動センターと共催で実施した。

体験プログラムとして、(1)地域活動コース、(2)福祉施設コースの2つを設定し、(2)福祉施設体験コースを 1)障害者施設 2)高齢者施設 3)児童施設 の3つの種別に分けた。

総勢53名（内訳：中学生22名、高校生31名）の参加があり、実施期間を2つに分け、区内25ヶ所の福祉施設で福祉体験を行った。オリエンテーションでは、施設職員にも協力していただき、施設体験の各分野に分かれてディスカッションを行った。事業終了後、参加者による体験感想を集約し感想文集を発行した。

山科ユースアクション 2014

開催年月日	場所	内 容
平成26年7月18日（金）	山科青少年 活動センター	学習（事前研修） 全体オリエンテーション 活動先別オリエンテーション
A日程：7月22日（火）～7月25日（金） B日程：7月28日（月）～8月1日（金） （期間中3～4日間）	各活動先	体験 ・地域活動コース （地域活動ボランティア・フリースペース） ・施設福祉コース （障害者施設・高齢者施設・児童施設）
平成26年8月4日（月）	山科青少年	交流（事後研修）

	活動センター	活動のふりかえり 修了証授与
--	--------	-------------------

(体験先施設と参加者数)

施設名	参加者数	施設名	参加者数
山科障害者授産所	1	西野山保育園	1
やましな学園	1	なかとみ保育園	3
特別養護老人ホーム長楽園	2	西念寺保育園	4
特別養護老人ホーム ヴィラ山科	1	永興小金塚保育園	5
百々老人デイサービスセンター	1	山科保育園	2
デイサービスセンターひびき	1	大宅保育園	3
介護老人保健施設おやおやけの里	1	陵ヶ岡保育園	2
特別養護老人ホームそらの木	1	栂辻保育園	6
百々児童館	1	さくら保育園	4
花山児童館	1	ももの木保育園	4
小野児童館	2	地域活動ボランティア「ちかボ。あそび隊」	3
鏡山保育所	1	地域福祉推進委員会「フリースペース」	(〃)
万因寺保育園	2	合 計	53

(5) 活動支援事業

①ボランティア活動資材の整備及び貸出

学校から、福祉教育やボランティア学習で使用する車いすやアイマスク等貸出の依頼に対応した。また、区民への車いすの貸出も行った。

ボランティア活動資材・会議室等貸出件数

活動資材	貸出件数	活動資材	貸出件数
車いす	69 件	マイク・アンプ	6 件
アイマスク	0 件	スピーカー	0 件
プロジェクター	1 件	点字器	0 件
スクリーン	0 件	ビデオテープ	0 件
ビデオデッキ	0 件	図書	0 件
OHP、略字表	0 件	貸出総数	76 件

会議室等貸出	件数
ボランティアルーム	288 件
会議室	58 件
印刷機	247 件

②福祉の保険スマイルの普及

ボランティア活動中の偶発的な事故について補償する「ボランティア保険」、「福祉行事保険」、「まごころワイド（福祉事業者総合補償制度）」の加入を促進した。

福祉の保険スマイル加入人数

保険種類	件数	加入人数
ボランティア保険	145 件	1,759 名
福祉行事保険	220 件	10,390 名
まごころワイド	7 件	

③山科ボランティアグループ連絡会への支援

山科区内で活動するボランティアグループで結成する山科ボランティアグループ連絡会では、連絡会加入団体のメンバーが会議を行い、互いの情報交換・ネットワークづくりを図るとともに、各種ボランティア講座の企画・運営や、研修会の開催をした。また、ボランティアグループ連絡会のクリアファイルを作成し、ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科等でボランティア活動やグループ紹介等の啓発活動を行った。連絡会加入団体に対しては、年間を通じて会議室やボランティア室の利用等活動推進に協力した。

ボランティアグループ連絡会会議

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 4 月 21 日 (月)	区社協	1. 平成 2 6 年度区社協年間事業計画概要について 2. 平成 2 6 年度ボランティア講座年間実施計画について 3. ボランティア基礎講座について 4. 情報提供・近況報告 5. その他
平成 26 年 6 月 23 日 (月)	区社協	1. ボランティア基礎講座の内容について 2. ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科について 3. ボランティアグループ連絡会の研修会について 4. 情報提供・近況報告 5. その他
平成 26 年 10 月 20 日 (月)	区社協	1. 災害ボランティアセンター運営設置訓練について 2. ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科について 3. 情報提供・近況報告 4. その他
平成 26 年 12 月 15 日 (月)	区社協	1. 平成 2 6 年度上半期事業報告について 2. 災害ボランティアセンター運営設置訓練の振り返りについて 3. ぐるっとふれ愛まちフェスタ in 山科の振り返りについて 4. 平成 2 7 年度山科ボランティアグループ連絡会について 5. 山科社会福祉大会について 6. 情報提供・近況報告 7. その他
平成 27 年 2 月 16 日 (月)	区社協	1. 平成 2 7 年度山科ボランティアグループ連絡会について 2. その他 3. 情報提供・近況報告

ボランティアグループ連絡会研修会

研修内容は連絡会において協議し、要望のあった普通救命講習とした。4 団体から 6 名の参加があった。

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 8 月 26 日 (火)	区社協	1. 普通救命講習

④ボランティア団体活動助成

ボランティアグループへの支援として、連絡会加入団体を対象とした活動助成を実施した。財務委員会の審査により、申請があった 9 団体すべてに助成金を交付した。また助成金の使途の明確化と活動の活性化を目的に、助成金交付説明会を開催した。

団体名	助成内容	助成金額
京都市手話学習会みみずく山科支部	聴覚障害や手話に理解を深める研修の開催に関する費用	30,000
京都市要約筆記サークルかたつむり (山科)	要約技術研鑽のための研修	30,000
特定非営利活動法人山科醍醐こどものひろば	広報紙「コッペパン」発行	30,000
山科タンタンおもちゃライブラリー	広報紙「タンタン通信」発行	30,000
親子支援ネットワーク♪あんだんて♪	広報紙「あんだんて通信」発行	30,000
沢ネット	ボランティア保険料	10,000
地域活動ボランティアあそび隊	月 1 回の定例活動に際しての費用	10,000
わの会	会報誌作成費用の一部	10,000
京都生協くらしの助け合いの会	活動会員の勉強会に関する費用や広報に関する費用	10,000
合計 9 団体	助成金額合計	190,000

(6) 災害対策事業

①山科区防災会議への参画

山科区役所区民部総務課が主管する山科区防災会議に参画した。

②山科区災害ボランティアセンターの設置運営

「山科区災害ボランティアセンター設置・運営マニュアル」を基に、実際の設置予定場所において区災害ボランティアセンター設置・運営訓練を実施した。参加者には、区役所・地域・区社協の役割を講義で、地域と区・学区災害ボランティアセンターとの連携体制や要配慮者へのニーズ把握等についてロールプレイで学んだうえで、各学区の課題について検討いただいた。

山科区総合防災訓練・山科区災害ボランティアセンター設置・運営訓練

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 10 月 30 日(木)	山科青少年活動センター	1. 第 1 部（講義） (1) 災害時における区役所の役割について 山科区役所 地域力推進室 地域防災係長 高木恵市 (2) 災害時における地域・区社協の役割について 山科区社会福祉協議会 中村亮太 2. 第 2 部（ロールプレイ） (1) 山科区災害ボランティアセンターの設置から 災害ボランティアの派遣まで (2) グループワーク 3. 講評 山科区社会福祉協議会 副会長 堀井崇男

(7) 知恵シルバーセンター事業の普及啓発

知恵シルバーセンター事業の受付センターとして普及啓発に努めた。

5 セーフティネット事業

(1) 日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）

①広報及びネットワークの強化

日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）について、関係機関、団体等へ事業の周知をすすめた。また、生活支援員確保のために学区社協の協力を得て、随時説明会を開催した。

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 7 月 8 日（火）	音羽地域包括支援センター	・日常生活自立支援事業について ・事例報告
平成 26 年 8 月 21 日（木）	保健センター	・日常生活自立支援事業について ・事例報告

②利用者支援の充実

利用者支援では、専門機関や福祉サービス事業所との連携はもとより、利用者の地域生活における人とのつながりづくりも積極的にすすめた。利用者の地域を担当とする民生委員や老人福祉員に対し支援の共有を行うなど、利用者本人を支える多様な支援者が利用者だけでなく、支援者同士もつながるよう意識的に事業をすすめた。

i 契約件数

	高齢者	知的障害者	精神障害者	その他	山科区計
昨年度末実動件数	31 件	12 件	6 件	0 件	49 件
新規契約件数	17 件	2 件	3 件	3 件	25 件
解約件数	12 件	2 件	1 件	1 件	16 件
3 月末実動件数	36 件	12 件	8 件	2 件	58 件

ii 年間延べ支援回数 1,230 回

iii 月別相談件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規相談	4	2	2	2	6	1	2	4	2	2	2	3	32
新規契約	1	1	3	1	1	3	3	3	2	3	3	1	25
解約	4	2	2	1	1	0	0	1	1	3	0	1	16

③人材の育成

i 生活支援員の確保

市社協にて生活支援員養成研修が年2回行われ、山科区からは延べ18名の参加があり、新たに15名の生活支援員が加わった。山科区の生活支援員は56名の登録があり、そのうち39名がケースを担当し活動している。

ii 生活支援員研修会の実施

生活支援員の知識・技術向上のため、市社協で行う生活支援員現任研修において、山科区内から延べ20名の参加があった。

iii 山科区生活支援員交流会

生活支援員のスキルアップと利用者への理解を促進するために交流会を実施した。

開催年月日	場所	内 容	参加人数
平成26年6月12日(金)	区社協	・平成25年度 日常生活自立支援事業報告について ・交流会	12名
平成26年10月7日(火)	区社協	・平成26年度 日常生活自立支援事業進捗報告について ・事例検討 ・交流会	17名
平成27年1月27日(火)	区社協	・日常生活自立支援事業進捗報告について ・事例報告 ・交流会	7名
平成27年1月30日(木)	区社協	・日常生活自立支援事業進捗報告について ・交流会	16名

iv 生活支援員向け情報紙の発行

生活支援員の意識向上と支援員活動のフォローアップを目的に情報紙を発行した。支援員活動に必要な情報を定期的に伝えて利用者支援を充実させること、また支援員同士がつながり、お互いに情報交流できるよう努めた。

情報紙「支援員通信 やましな・ぶどう通信」

発行時期	号	内 容
平成26年5月	第7号	・事務局職員・担当職員の紹介 ・第1回生活支援員交流会の案内 ・支援員の紹介 ・編集後記
平成26年9月	第8号	・警報等発令時の支援について ・第1回生活支援員交流会の報告 ・第2回生活支援員交流会の案内 ・生活支援員紹介 ・編集後記
平成26年11月	第9号	・年末年始カレンダー ・第2回生活支援員交流会の報告 ・第3回生活支援員交流会の案内 ・生活支援員紹介 ・編集後記
平成27年3月	第10号	・郵便局の払戻請求書 様式変更のお知らせ ・第3回生活支援員交流会の報告

(2) 生活福祉資金貸付事業の推進

民生児童委員会をはじめ関係機関との連携のもと、貸付相談と償還支援を行った。平成26年度に生活福祉資金貸付事業は、安定した労働収入が得られない方や失業等により日常生活に不安のある方が相談しやすく制度改正された。山科区における貸付相談件数は、年々増加していたが、平成26年度は貸付相談件数506件（平成25年度477件）、貸付申請件数293件（平成25年度276件）であり、前年度と比較すると若干増加している。

京都市域の貸付相談件数3,191件、貸付申請件数1,875件に対し、山科区の貸付相談15.9%、貸付申請15.6%を占める。京都市人口699,953人のうち山科区59,447人(8.5%)と人口比からも、相談・申請件数が他区より多く、生活状況は依然として厳しい世帯が多いことが伺える。

償還では、滞納初期の対応に重点を置き、電話相談、訪問による生活状況の確認等を行い、借受人が計画的に償還できるように支援している。平成26年度においても、第3期山科区地域福祉計画に基づき社協のネットワークを活かしたアウトリーチをこれまでより一層積極的に展開し、法人内外の連携を強化し、関連機関とつながりながら相談対応をすすめた。

また、学区民協の要望に応じて、生活福祉資金貸付事業の制度の歴史や概要、現状、実務等について具体的に知っていただく説明会を開催した。

①貸付相談・申請件数（平成26年度末）

資金の種類		相談件数	申請件数
総合支援資金	生活支援費	42件	8件
	住宅入居費	5件	3件
	一時生活再建費	4件	2件
臨時特例つなぎ資金		0件	0件
福祉資金	生業費	6件	0件
	技能習得費	5件	1件
	住宅	3件	0件
	福祉用具購入	0件	0件
	障害者自動車購入費	3件	0件
	中国残留邦人等国民年金追納費	0件	0件
	療養費	2件	0件
	介護等	0件	0件
	災害援護費	0件	0件
	冠婚葬祭費	0件	0件
	転宅費	16件	4件
	技能修得支度費	1件	0件
	一般福祉費	30件	11件
緊急小口資金（災害特例0件）	27件	3件	
教育支援資金	教育支援費	178件	131件
	就学支援費	179件	130件
不動産担保型生活資金		4件	0件
その他		1件	0件
合計		506件	293件

②償還対応件数

		借受人	連帯保証人	民生委員	事務局	合計
●償還相談 合計		339	6	66	262	673
① 償還再開	償還再開	39		5	35	79
	分割申請	62		1	2	65
	猶予申請	1				1

	払込票送付	24	4		11	39
	その他（問合せ等）	177	1	21	5	204
② 償還完了	一括償還	7			2	9
	延滞利子免除申請					
③ 電話不在					117	117
④ 連絡不能、行方不明					25	25
⑤ 文書通知					57	57
⑥ 訪問			1	20		21
⑦ その他	転居	28		17	6	51
	死亡			2		2
	自己破産	1			2	3

③生活福祉資金貸付調査委員会

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 6 月 6 日（金）	区社協	1. 法人活動の運営管理並びに委員会の再編強化について 2. 平成 25 年度生活福祉資金事業報告について 3. 「生活保護法による保護の実施要領の取扱」の一部改正について 4. 住宅支援給付事業について 5. 日常生活自立支援事業について
平成 26 年 11 月 21 日（金）	区社協	1. 委員長・副委員長の選任について 2. 生活福祉資金貸付事業について （1）平成 26 年度上半期事業報告について 3. 日常生活自立支援事業について （1）平成 26 年度上半期事業報告について
平成 27 年 3 月 3 日（火）	区社協	1. 生活福祉資金貸付事業について （1）平成 26 年度事業報告について 2. 日常生活自立支援事業について （1）平成 26 年度事業報告について 3. 社協をめぐる動向について 4. 平成 27 年度事業計画（素案）について 5. 委員会の再編について

④生活福祉資金にかかる広報・啓発、研修、関係機関等の会議等の実施状況

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 9 月 25 日（木）	大宅小学校	大宅学区民生児童委員へ事業説明会

⑤住宅支援給付事業

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
来所者 （延べ）	7	5	5	3	8	3	4	9	11	10	10	8	83
新規 申請者数	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	3
受給者数	1	1	1	0	0	0	1	2	2	2	2	2	14

6 生活支援事業

（1）高齢者福祉事業

①山科区在宅サービス実務者会議への参画

区内の居宅支援事業所を中心とした実務者会議に参画した。

②山科区内地域包括支援センターとの連携

地域包括支援センター運営協議会（2回）、運営会議並びに連絡協議会（隔月1回）に参画した。また、学区ごとに開催される地域ケア会議（各学区年2～3回）、日常圏域地域ケ

ア会議に参画した。

③山科・介護者の会「はげましの会」への支援

山科・介護者の会「はげましの会」への支援として、世話人会への助言と情報提供を行った。会員数は55名（平成27年3月31日現在）である。

「はげましの会」では、介護者が集う機会を毎月企画し介護者の仲間づくりをすすめるとともに、広報紙の発行、誕生日カード・プレゼントの送付し交流を図るなど、介護者が一人で抱え込まないような取組を実施した。また、公開講座では「おしっこの話」をテーマに開催し、介護にとどまらず関心のあるたくさんの方々も参加される学習の場を企画した。

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 11 月 1 日（土）	区社協	第1部 「おしっこの話」 （有）西陣おたっしや本舗 松田 ひろ子 氏 第2部 「不思議ないやしの音たち」 青木 学 氏

④認知症への理解促進に関する啓発事業

長寿すこやかセンターが実施する「認知症あんしん京づくり」推進事業において、地域包括支援センター等と協力し区民への認知症理解を促した。

（2）障害者福祉事業

①山科区障害者福祉サービス実務者会議への参画

障害者福祉サービス実務者会議に幹事団体として参画した。事前に実行委員会にて自立支援協議会との整理を行い、今年度は山科区内の障がい者の地域生活を支援する実務者レベルでのネットワークづくりを強化する目的で実施された。

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 9 月 30 日（火）	区社協	1. 東総合支援学校、区社協について 2. 「今一番困っている事」「今一番知りたい事」について

②京都市東部障害者地域自立支援協議会「地域懇談会」への参画

東山区、山科区、伏見区醍醐地域がエリアとなる京都市東部障害者地域自立支援協議会では、「地域懇談会」を実施している。今回は「”気になるあの人”から”ほっとけないあの人”へ知ってみれば見方も変わる」をテーマに、社会的孤立を防ぐために地域でできることを考える内容で開催した。当日は、障害児者関係施設、事業所、学区社協関係者、民生児童委員等105名が参加した。2つの実践報告を踏まえ、その後グループディスカッションを行い、それぞれの立場から意見を出し合い共有した。具体的な事例について共に考える機会を重ねることで、より一層地域での障害に対する理解と協力を得られることが期待される。

開催年月日	場所	内 容
平成 27 年 2 月 2 日（月）	東山総合庁舎	テーマ “気になるあの人” から “ほっとけないあの人” へ知ってみれば見方も変わる～社会的孤立をふせごう～ ① 一人暮らし男性を支える地域福祉活動実践 報告：六原学区民生児童委員協議会 ② 母親の施設入所後、一人暮らしの娘を支える専門機関の役割 報告：東部障害者地域生活支援センターらくとう ③ グループワーク コーディネーター：東山区社会福祉協議会 藤井 一 氏

③山科こころの健康を考える会への参画

精神保健福祉の推進団体により組織されている「山科こころの健康を考える会」に、幹事団体として参画した。また、理解と交流を広げる事業に取り組むにあたり、本会も事務

局として事業の企画、運営に携わった。

i こころの健康を考える会 幹事会

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 4 月 23 日 (水)	区役所	1. 平成 25 年度事業報告について 2. 平成 26 年度事業計画 (案) について 3. その他

ii こころの健康を考える会 総会

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 5 月 21 日 (水)	区役所	1. 平成 25 年度事業報告について 2. 平成 26 年度事業計画 (案) について 3. その他

iii 第 15 回 山科こころのふれあい夏まつり

精神に障がいのある人と地域住民との交流を目的として次のとおり実施した。一般 77 名を含む 303 名が参加した。

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 8 月 11 日 (月)	京都市生涯学習センター山科	<ul style="list-style-type: none"> ・オープニングイベント アロハ・フラ・フラワーズ ・活動 PR (陽だまりクラブ共同作業所・やすらぎの里・やましなの里・オリブホットハウス・山科共同作業所・ハピネス京都・新明塾工房ソラ山科教室・からしだねワークス・ひばり) ・作業所・社会復帰施設の手作り製品販売 ・ゲーム、缶バッジ作り、クイズ&スタンプラリー ・パネル展示 施設紹介 ・「もてなすくん」がやってくる!

iv 精神保健福祉シンポジウム

最新の精神保健福祉動向と、当事者や支援者の声を通して、こころの病のある人が安心して地域で暮らせるまちづくりへの理解を深めた。

開催年月日	場所	内 容
平成 27 年 2 月 26 日 (水)	京都市生涯学習センター山科	テーマ 「病院から地域社会へ」 ～当事者の声と京都市の現状～ 一部 講演「精神保健福祉行政の動向」 二部 シンポジウム「病院から地域生活へ」 講師 京都市こころの健康増進センター所長 波床将材 氏 シンポジスト 当事者 訪問看護ステーション開く 訪問介護 京都福祉サービス協会 東部障害者地域生活支援センターからしだねセンター

v こころの健康サポーター講座の開催

こころの病のある人たちへの理解促進と支援する人材育成を目的として、こころの健康サポーター講座を開催した。今回は民生児童委員を対象に実施、参加者は 1 回目 18 名、2 回目 10 名であった。

こころの健康サポーター講座 (全 2 回)

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 10 月 10 日 (金)	区社協	講義「こころの病って何ですか？」 講師；並河東明氏 (精神科医) 幻聴体験・グループワーク
平成 26 年 10 月 31 日 (金)	区社協	当事者の話「こころの病があっても地域でくらしています」 事例紹介、地域での関わり (民生委員、訪問看護ステーション、訪

		問介護) グループワーク
--	--	-----------------

vi 山科区こころのマップ作成

山科区内の関係機関、京都市域の専門機関についてのマップを700部作成し、配布した。

④福祉施設事業助成

赤い羽根共同募金配分金を財源として、福祉施設への事業助成を行った。交付にあたって、助成金交付説明会を開催し、共同募金運動をめぐる全国的な動向と現状、配分の趣旨についての説明会を開催し、趣旨に沿った活用と受配者自身の運動への参画を働きかけた。

作業所名	助成案件	決定額
山科工房	ミシン	42,000
新明塾山科教室	木工用万能精密旋盤	42,000
フレンドリーハウス小野作業所	エアコン	42,000
陽だまりクラブ共同作業所	洗濯機	42,000
山科やすらぎの里共同作業所	インクカートリッジ	42,000
	合 計	210,000

(3) 子育て支援事業

①やましな子育て支援連絡会の運営

やましな子育て支援連絡会の事務局として事業運営に参画し、幹事会(1回)、代表者会議(1回)を開催した。

また、部会である「子育て支援部会」の会議(6回)、「子育て支援部会」「発達支援部会」での研修等を実施し、関係機関での事業の具体化と情報共有を図った。

i やましな子育て支援連絡会 幹事会

開催年月日	場所	内 容
平成26年4月18日(月)	区役所	1. 自己紹介 2. 『やましな子育て支援連絡会』 ①平成25年度事業報告について ②平成26年度事業計画(案)について 3. その他

ii やましな子育て支援連絡会 代表者会議

開催年月日	場所	内 容
平成26年6月16日(月)	区役所	1. 自己紹介 2. 『やましな子育て支援連絡会』 ①平成25年度事業報告について ②平成26年度事業計画(案)について 3. 『京都市山科区要保護児童対策地域協議会』 ①京都市における児童虐待の状況について ②質疑応答・意見交換等

iii やましな子育て支援連絡会 研修会

開催年月日	場所	内 容
平成26年9月25日(金)	区役所	テーマ「大切にしよう!子どもの心と体」 講師 思春期保健相談士 徳永桂子氏 参加者71名

iv 子育て支援部会

開催年月日	場所	内 容

平成 26 年 5 月 12 日 (月)	区社協	1. 自己紹介 2. 平成 26 年度子育て支援部会の取り組みについて ・保健センター1歳半検診時あそびの広場 (仮称) について ・平成 26 年度子育て支援情報の発信について ・平成 26 年度子育て講演会・親子交流行事について ・情報交換について ・平成 26 年度子育て支援部会議日程について 3. 情報交換 4. その他
平成 26 年 7 月 7 日 (月)	区社協	1. 平成 26 年度子育て支援部会の取り組みについて ・平成 26 年度子育て講演会・親子交流行事について ・保健センター1歳半検診あそびの広場 (仮称) について ・情報交換について 2. 情報交換 3. その他
平成 26 年 9 月 1 日 (月)	区社協	1. 平成 26 年度子育て支援部会の取り組みについて ・平成 26 年度子育て講演会・親子交流行事について ・保健センター1歳半検診あそびの広場について ・情報交換について 2. 情報交換 3. その他
平成 26 年 11 月 10 日 (月)	区社協	1. 平成 26 年度子育て支援部会の取り組みについて ・平成 26 年度子育て講演会・親子交流行事ふりかえり ・保健センター1歳半検診あそびの広場について ・次回検討事例の抽出について 2. 情報交換 (ほっこり子育て広場について、保健センターより) 3. その他
平成 26 年 12 月 8 日 (月)	区社協	1. 平成 26 年度子育て支援部会の取り組みについて ・平成 26 年度事業ふりかえりと次年度計画について ・保健センター1歳半検診時あそびの広場について ・1. 外国人ママへの各館としての情報発信内容 ・2. 事例検討について 2. 情報交換 3. その他
平成 27 年 3 月 2 日 (月)	区社協	1. 平成 26 年度事業ふりかえりと次年度計画について 2. 平成 27 年度行事について 3. 子ども支援センターより ・子育て支援アプリについて ・次年度以降の地域子育て支援ステーション概略について

※情報交換の内容

乳幼児クラブの活動内容、利用者の参加動向、PR方法について
 学童の長期休暇における乳幼児の対応状況について
 乳幼児親子向けのランチタイム対応状況について
 各館独自の取り組みについて
 保育等に民生児童委員等地域の協力を得ている状況について
 「ほっこり子育てひろば」事業について
 お母さんへの教室開催時の保育について
 集団行動に入れない子の支援について
 障害児学級中学生の利用への対応について
 居場所のない中高生の利用への対応について
 外国人ママへの対応可否状況について
 障害認定されていないまたは自覚がない等グレーゾーンの親子への対応について

v 子育て支援部会 スキルアップ研修・事例検討会

開催年月日	場所	内 容	参加
平成 27 年 2 月 2 日 (月)	区社協	事例検討会	25 名

		「発達や情緒に課題を感じ特別な支援を要している親子へのより良い関わり方」 講師 岡崎 達也 氏 (児童福祉センター発達相談課支援担当係長)	
--	--	---	--

vi 発達支援部会 企画運営会議

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 6 月 2 日 (月)	区役所	1. 平成 26 年度の研修計画について 2. その他

vii 発達支援部会研修・事例検討会

開催年月日	場所	内 容	参加
平成 26 年 7 月 3 日 (木)	区役所	情報提供 「保健センターの発達支援について」 山科保健センター保健師 浜本 由香 氏 「地域の療育機関での支援について ～子どもと親を支えるということ」 小山児童園 てくてく親子教室園長 西川藍 氏 ファシリテーター 岡崎達也 氏 (児童福祉センター発達相談課支援担当係長)	70 名
平成 25 年 12 月 5 日 (金)	区役所	内容 事例検討およびグループワーク 「発達特性のある親子の支援と関係機関の連携 ～乳幼児の発達支援における関係機関の連携～」 ファシリテーター 岡崎達也 氏 (児童福祉センター発達相談課支援担当係長)	45 名

②子育て支援情報の発信

最近の保護者の情報収集動向に合わせて、広報媒体や内容について子育て支援部会で検討を重ねた。子育て支援の情報提供をより充実させるために、子ども支援センターだよりへの情報提供の充実、ホームページからの発信と子育てアプリへの情報提供協力を実施した。イベントチラシの裏面を活用して子育て支援部会と区内児童館の周知を目的とした情報発信も行った。

③子育て支援事業の開催

i こどもの文化フォーラムへの参画

実行委員として企画の段階から参画した。文化・音楽・芸術に子ども達が触れる機会を提供することで、参加する楽しさを知り、心豊かな感情を育み、夢ある子どもの成長を促した。また、参加する子どもを介してとりまく大人を含めた世代間交流、障がいの有無を超えて共に楽しむ体験等さまざまなつながりづくりにも発展できた。

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 6 月 29 日 (土)	京都市東部文化会館	「第 10 回こどもの文化フォーラム ～あしたにむかってジャンプ!」 地続きプロジェクト参加できる芸術、道路アート、みんなの絵日記コーナー、山科カルタ、フルーツ・マンドリン・大正琴ってどんな楽器?、公募活動グループブース、演劇鑑賞

ii 子育て支援部会企画 子育て講演会、親子交流事業の開催

親子（母だけでなく父、祖父母も含めて）を対象にを開催し、「あそび」を通してあたたかい関係を自然と築き、親子一緒に楽しみながら子どもの育ちを助ける気づきの機会提供を行った。親子のふれあいと絆の大切さを実感することができた。29組の参加者であった。

開催年月日	場所	内 容
-------	----	-----

平成 26 年 9 月 6 日 (土)	京都市生涯学習センター山科	「みんなであそび親子ふれあいDAY」 親子交流事業：親子レクリエーション 3B 体操協会京都支部 子育て講演会：絵本を楽しむ 子うま文庫 自由遊び
---------------------	---------------	--

④障害児の長期休み支援事業（あそびの広場）の実施

障害児の余暇支援として、長期休み期間中に遊びの場を提供した。総合支援学校や学区社協等の協力のもと夏休み 3 回、冬休み 2 回、春休み 1 回実施した。のべ 146 名の親子が参加し、ボランティア 53 名の参加があった。

あそびの広場

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 8 月 1 日 (火)	京都市立東総合支援学校	バーベキュー・プール・自由遊び・かき氷作り 11 組 25 名、ボランティア 5 名参加
平成 26 年 8 月 7 日 (火)	京都市立東総合支援学校	カレーライス・プール・自由遊び・デザート作り 4 組 8 名、ボランティア 5 名参加
平成 26 年 8 月 19 日 (火)	京都市立小野小学校	流しそうめん・うどん作り・プール・自由遊び 17 組 35 名、ボランティア 14 名参加
平成 26 年 12 月 25 日 (木)	京都市立東総合支援学校	おもちつき・音楽会・自由あそび 15 組 36 名、ボランティア 12 名参加
平成 27 年 1 月 5 日 (月)	京都市立東総合支援学校	お正月遊び・たこ焼パーティー・自由遊び 12 組 27 名、ボランティア 13 名参加
平成 27 年 3 月 24 日 (火)	山科身体障害者福祉会館	お弁当作り・たこ焼パーティー・自由遊び 7 組 15 名、ボランティア 4 名参加

⑤山科子育て応援団への支援

山科区内で活動する 7 つの子育てサークルのネットワーク「山科子育て応援団」では、親子での交流を大事にし、会議の開催や、サークル紹介リーフレットの作成、母親と子ども仲間づくりを目的とした「子育てサロン」の開催等を支援した。

子育てサロン

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 6 月 20 日 (金)	区社協	リズムで、あ・そ・ぼ！（担当：親子リズム・あそぼっぼ） リズム遊び（20 分×2 回）、大布パルーン 17 組参加
平成 26 年 8 月 8 日 (金)	区社協	プールで、あ・そ・ぼ！（担当：全団体・山階児童館・山科老人デイサービス） プール遊び 8 組参加
平成 26 年 10 月 17 日 (金)	区社協	つくって、あ・そ・ぼ！（担当：げんきスポット 0-3・あそびっこクラブ） ペットボトルガラ作り 10 組参加
平成 26 年 12 月 19 日 (金)	区社協	サンタさんと、あ・そ・ぼ！（担当：タンタン・だんごやましなくらぶ） 三角帽子作り サンタさんのプレゼント 17 組参加
平成 27 年 2 月 20 日 (金)	区社協	おかあさんと、あ・そ・ぼ！（担当：お話珠手箱ふうて・子育ての文化研究所） 子育てかるた 絵本読み語り 9 組参加

（４）生活支援事業

①福祉に関する総合相談事業の実施

地域福祉活動を推進する方策として、また、地域の身近な相談窓口として住民の信頼を高めるために福祉総合相談事業を実施し、身近な相談機関として相談機能の充実強化をすすめた。284 件の相談があった。

（５）支援のためのネットワーク強化・充実

①山科区地域福祉推進委員会への参画

山科区地域福祉推進委員会の事務局として、委員会や部会議等を開催した。

また、「山科区の地域福祉を考える集い」では、フリースペースの実践報告を紹介し、居

場所づくりをきっかけとした活動状況を知っていただいた。後半では、参加者同士が懇談をしながら、居場所づくりのさらなる充実ならびに居場所を拠点とした新しい活動の可能性について専門機関等を交えて検討し、今後の展望について共有した。参加者は 152 名であった。

i 山科区地域福祉推進委員会

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 5 月 20 日 (火)	区役所	1. 各委員の自己紹介 2. 平成 25 年度事業報告及び決算の報告 3. 平成 26 年度事業計画 (案) 及び予算 (案) の承認 4. 平成 26 年度シンポジウムの内容について 5. 各地域福祉推進委員の地域における活動報告と意見交換
平成 26 年 11 月 14 日 (金)	区社協	1. 平成 26 年度上半期事業報告 2. 第 2 回作業部会の報告 3. 平成 26 年度「山科区の地域福祉を考える集い」について 4. 各地域福祉推進委員の地域における活動報告と意見交換

ii 山科区地域福祉推進委員会作業部会

開催年月日	場所	内 容
平成 26 年 4 月 24 日 (木)	区社協	1. 平成 25 年度山科区地域福祉推進委員会振り返りについて 2. 平成 26 年度地域福祉推進委員会の事業について 3. その他
平成 26 年 10 月 23 日 (木)	区社協	1. フリースペース上半期報告 2. 平成 26 年度「山科区の地域福祉を考える集い」について 3. 地域福祉推進委員会について
平成 27 年 3 月 9 日 (木)	区社協	1. 平成 26 年度「山科区の地域福祉を考える集い」について振り返り 2. 平成 26 年度 フリースペースについてふりかえり 3. 福祉マップの更新について 4. 平成 27 年度の活動について

iii 山科区の地域福祉を考える集い

開催年月日	場所	内 容
平成 27 年 1 月 28 日 (水)	区役所	参加者：152 名 (+要約筆記 3 名) 内訳：学区社協・民協・老福 82 名、専門・関係機関 18 名、NPO・活動グループ団体 12 名、一般 16 名、作業部会員 16 名、行政 3 名、事務局 5 名 テーマ：きっかけは居場所づくりから 「居場所」を拠点として地域課題を解決するために 講演・コーディネーター： 大谷大学 教授 志藤 修史 氏 事例報告者： フリースペース責任者 板野 美由紀 氏 就労継続支援 B 型事業所オリーブホットハウス施設長 勇川 昌史氏 グループ討議・意見交換 テーマ：今気になっている地域の課題を「居場所」から解決できないか。 講演や事例報告を聞いて、自分にもできそうだと感じたこと。

iv 「フリースペース」の取組

少子超高齢・人口減少・無縁社会化がすすみ格差・貧困が拡大し、誰もが社会的に孤立した状態に陥りやすい状況にある。こうした状況は、虐待や自死・孤独死等の問題を生み、負の連鎖反応を引き起こしている。こうした社会問題を予防し、山科区民のボランティア力と障害者や高齢者等の活躍の場を生み出し、安心安全の福祉のまちづくりを推進することを目的として、地域福祉関係者の連携・協働によりすすめた。

提供する側がすべてをお膳立てしてもてなす運営ではなく、参加者もスタッフも専門機関もお互いに居場所の一部であり役割を担いつつ集う場となってきた。顔見知りが増えた集いの場で、ゆるくみんなでお互いに見守り、必要に応じ専門機関が相談に入ることのできる“安心の場”にも発展してきている。開催場所も6か所に増え、各所で個性ある取組が進められてきた。

フリースペース実施場所

実施場所	日時
山科醍醐こどものひろば (山科区竹鼻堂ノ前町 18-1)	毎週 月曜日 10時 ~ 16時
ふれあいスペース絆 (山科区大塚高岩)	毎週 火曜日 10時 ~ 16時
山科総合福祉会館 (山科区西野大手先町 2-1)	毎週 水曜日 10時 ~ 16時
笑顔とふれあいの家「みささぎ」 (山科区御陵原西町 42)	毎週 水曜日 13時 ~ 16時
みちくさの家「百々学区社会福祉協議会」 (山科区川田清水焼団地町 6 番地 2)	毎月 第 2 木曜日 13時 30分~15時 30分
るまんやましな「みんなの家大宅」 (山科区東野門口町 1-2)	毎月 第 3 火曜日 10時 ~ 15時

また、地域の絆づくり事業で居場所活動されている以下の3学区4か所においても、フリースペースと統合して活動を継続することとなった。

- ・安朱学区（安朱自治会館）「アルモンデ」
- ・山階南学区（山階南小学校）「絆ひろば」
- ・小野学区（小野児童館、デイサービスすばる勸修寺）「居場所・井戸端」

フリースペース実績

項目	場所 山科醍醐こどものひろば (山階学区)	東総合支援学校 ふれあいスペース絆 (大塚学区)	山科総合福祉会館 (山階学区)
開催日時	毎週 (月)	毎週 (火)	毎週 (水)
実施回数	39回	50回	49回
時間	10:00~16:00	10:00~16:00	10:00~16:00
特徴	こじんまり静かに過ごせる	地域主体の運営	広くて溶け込みやすい、男性も集いやすい
定例企画	古本市	第1・3週 AM 健康体操、高齢者相談 第2・4週 AM 健康体操 野菜販売	第1週 AM はげましの会
高齢者	52名	443名	2054名
障害者	3名	24名	10名
大人	37名	7名	40名
小人	1名	0名	9名
延べ利用者合計	93名	474名	2113名
ボランティア	0名	102名	258名
専門機関	76名	102名	82名
延べスタッフ合計	76名	204名	340名
成果	こころの病を持つ人の居場所としての役割ができてきている。	東総合支援学校の生徒と高齢者との関わりで野菜作りの協働が実現した。	幅広い年齢層に顔なじみの関係が広がっている。障害児の放課後利用にも活用されている。
課題	こころの病を持つ人に関	活動計画推進モデル事業と	孤立しがちな対象者の掘り

	わるスキルがスタッフに求められてきている。	して課題解決の拠点機能を高める必要がある。	起こしと参加の促しが必要である。
--	-----------------------	-----------------------	------------------

場所	笑顔とふれあいの家みささぎ (陵ヶ岡学区)	みちくさの家 百々学区社会福祉協議会 (百々学区) 7月～	るまんやま みんなの家大宅 (大宅学区) 9月～	
項目				
開催日時	毎週(水)	毎月第2(木)	毎月第3(火)	
実施回数	51回	9回	7回	
時間	13:00～16:00	13:30～15:30	10:00～15:00	
特徴	アットホームに皆で集える	地域主体の運営	地域主体の運営	
定例企画	第2週 映画上映会	軽い体操 脳年齢チェック	惣菜パン、野菜販売、 挽きたて豆のコーヒー	
	高齢者	77名	58名	10名
	障害者	0名	12名	49名
	大人	26名	31名	3名
	小人	0名	0名	0名
延べ利用者合計	62名	103名	101名	
	ボランティア	50名	39名	10名
	専門機関	29名	16名	44名
延べスタッフ合計	54名	22名	11名	
成果	学区社協、民協、自治連で「みささぎ」の活用方法が検討された。	小学校だけでなく坂の上にも高齢者の集える場所を作れた。もちよりの企画や話題で気軽に過ごせる場ができた。	障害者施設との協働で居場所を作れた。カウンター越しに悩みを聞いたり皆で笑ったり馴染の喫茶店に集うような集いの場ができた。	
課題	検討内容を具体化し、狙い通りの活用方法にしていく必要がある。	利用してほしい人に足を運んでもらえる方策が必要である。	利用してほしい人に足を運んでもらえる方策が必要である。	

フリースペーススタッフ交流会

開催年月日	場所	内容
平成27年3月18日(水)	区社協	1. 情報交換 2. 交流懇談 3. その他

②個別支援

社協ネットワークを活かして地域に出向き、地域の困り事や個別の生活課題のある人に対し、必要な関係機関とつながりながら相談対応をすすめた。住民にとっての身近な相談先のひとつとなるために、より一層戦略的な周知とアウトリーチを展開する必要がある。

i 新規相談対応件数(平成27年3月31日現在)

月度	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
相談件数	5	7	0	9	5	4	4	3	3	4	2	6	52
(内継続件数)	(2)	(2)	(5)	(5)	(1)	(0)	(0)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(21)

ii 相談の詳細内訳

内容	狭間	非申請	複合問題	その他	合計
高齢者	0	10	5	12	27
障害者	0	5	4	9	18
成人	0	1	0	2	3
子ども	0	1	0	3	4
合計	0	17	9	26	52

【狭間】制度等の狭間、【非申請】何らかの理由でサービスにつながっていない、【複合問題】、【その他】

③若年性認知症の方の地域生活支援

地域での居場所活動にて認知症の方を把握した場合、地域包括支援センターと連携をとりその方の地域での生活を見守ること、地域包括支援センターが開催する認知症カフェへつなぐことに努めた。また、認知症カフェに対してアドバンスサポーター等担い手をつなぐ支援も行った。

④京都市社協受託「チャレンジ就労体験事業」への協力

稼働能力はあるがすぐには就労が困難であったり、社会参加の機会が必要な生活保護受給者に対して、施設や企業での軽作業等就労体験の機会を提供し、その経験を通じて自立への課題克服および経済的な自立等にむけたステップアップへと促すことを目的として、平成25年度から京都市社協が受託、区社協が協力することとなった。

i 体験者

現在までに、山科区で7名が体験（平成26年度新規開始は5名）した。

- ・社会生活自立目標型3ヶ月＋就労自立目標型3ヶ月：終了者1名、体験中1名
- ・就労自立目標型3ヶ月：終了者1名
- ・体験中止：4名（理由：傷病3名、辞退1名）

ii 体験事業所

また、法人内6施設（山科老人デイサービスセンター・山科中央老人福祉センター・山階児童館・百々児童館・大塚児童館・小野児童館）に加えて、区内での体験先開拓に協力することとなった。

平成25年度に体験先として登録いただいた（洛和会ヘルスケアシステム・社会福祉法人京都身体障害者福祉センター 京都市山科障害者授産所・社会福祉法人積慶園 山科積慶園）に加えて、平成26年度は社会福祉法人レモングラス そらの木に受託いただいた。

⑤京都市社協協定締結「高齢者等見守り活動企業連携事業」への協力

高齢者等の見守り活動を重層的に充実させる目的で、「高齢者等見守り活動企業連携事業」において、平成25年度から京都市社協が京滋ヤクルト販売、近畿中央ヤクルト販売、京都生活協同組合と協定を結び、区社協が協力することとなった。

現在までに、2件（平成26年度京都生活協同組合より2件）対応した。

⑥勸修中学校区こどものサポートプロジェクトへの参画

学習支援することを通して、地域の多様な大人が関わり、学校と連携し、地域と専門職の協働による包括的なサポートで「子ども達の地域での育ち」をトータルに支えるプロジェクトに参画した。

勸修中学校の図書館において、地域と大学生のボランティア活動による放課後学習会が立ち上がり、28名の中学3年生が登録した。